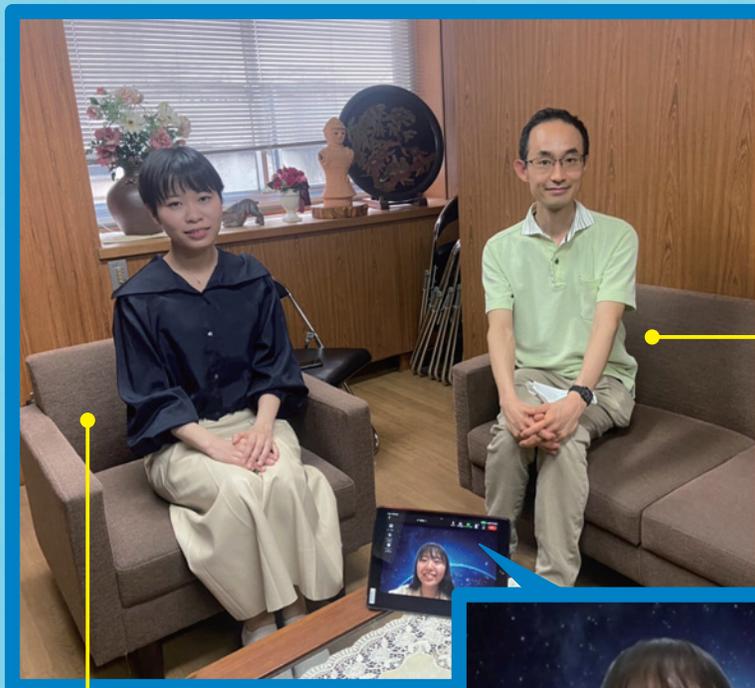


2023年11月に日本医療政策機構と東京大学SPRING GXが医師1,100人を対象に行ったオンライン調査で、78.1%の医師が「気候変動が人々の健康に影響を及ぼしていると感じている」と答えている一方で、「医学部在学中に気候変動と健康に関する講義を受講したことがある」と答えた医師は6.5%に留まっています。そこで、学生のうちから気候変動と医療の関係、医学生や医療者ができることを考えてもらうために、医師、医学生、Fridays For Futureに参加している学生の3名による対談を行いました。

対談

気候危機と健康格差

私たち学生／医療者にできること



横田 啓

岡山協立病院 総合診療医
みどりのドクターズ

古瀬 瑞穂

山口大学6年生



今岡 明日美

Fridays For Future(以下、FFF) 福岡
長崎大学3年生



横田…2008年卒で医師になって16年目になります。専門は総合診療、家庭医療の分野です。卒業してから山間地などでの医療を15年ほどしていて、その時にプラネターリーヘルスと医療が繋がることに気づき、ここ数年みどりのドクターズとしても活動しています。

古瀬…山口大学医学部6年生の古瀬です。志望科はまだ決まっていますが、内科系を考えています。民医連の活動には5年生から参加しました。本日はよろしくお願い致します。

今岡…長崎大学環境科学部3年生の今岡です。生まれは東京ですが、福岡育ちでFFF福岡で活動しています。FFFのメンバーとして本日の対談に参加させてもらいます。

古瀬…今岡さんはどうしてFFFの活動に参加しようと思ったのですか？

今岡…高校生の時に難民問題のイベントに参加しました。主催をしていた高校生が環境問題にも取り組んでおり、その方との出会いがきっかけです。昔から自然が大好きで、故郷の志免町や祖母の実家のある佐賀県ではカエルと触れ合ったり、祖母と植物を観察した

たいなど漠然と考え、高校1年生の時は国連職員になりたいと思っていました。高校2年生の時に先生と食事に行った際に、「アジアやアフリカの危険な土地に行ったとしても、医師と僧侶は殺されない」と教えていただき、医療の道もありだと思いました。その後、中村哲医師の講演会に参加した際に、人と1対1で働く医師という仕事に魅力を感じて医学部進学を決め、自治医科大学に入学しました。大学時代はファイリピンのハンセン病の施設やカンボジア、アフリカに行きました。発展途上国の子どもたちはよく笑っていて笑顔が素敵で、日本の子どもよりも幸せそうに思い、幸せに暮らすためには医療以外にも大事なことがあるのだと感じました。カンボジアの方たちの様子を見ると、日本人よりカンボジア人の医師に診てもらっていた方が安心してもらえていたように感じ、そういう医療以外の環境づくりが大切だと気づかされました。医師になってからは、離島や山奥で巡回診療に行ったりしました。当時は未熟でしたが、患者さんから「ありがとう」とよく言われ、やりがいになっていました。へき地医療を行い十数年経ったある時に、グレタさんが学校ストライキを始めたニュースを見てとても感心が湧きました。当時は仕事や家庭が忙しく、自

りしていました。その後、牛の飼育が温暖化を促進していることを知り、牛を畜産物として利用しているのは人間なのに、牛に責任を押しつけているような感覚に違和感を覚え、動物福祉の観点から気候変動に興味を持ち、FFFの活動に参加するようになりました。

古瀬…その学生団体とはどうやって繋がったのですか？

今岡…インスタグラムのフォローワーが、オーストラリアの森林火災についての投稿をシェアしていたため、その方にダイレクトメッセージを送ると、その団体の企画を紹介されて一緒に参加したことがきっかけです。



@Fridays for Future Fukuoka

分が取り組むことは難しいと感じ、数年ほどモヤモヤしていました。2022年の春、所属していた日本プライマリ・ケア連合学会で滋賀民医連の佐々木隆史医師による「気候変動×プライマリケア」というセッションを通じ、始めて医療と気候変動が繋がることが学び、医師としてできることに気づきました。気候変動に興味を持つている医療従事者と繋がってからは充実感、やりがいを得て、気持ちの面でも前向きになりました。

「みどりのドクターズ」は、LGBTQ+の医療面の課題に取り組み「にじいろドクターズ」の名前を参考にして決めました。みどりのドクターズは医師の他に、医学生、薬剤師、保健師、弁護士、事務職など多職種が参加し、日々取り組んでいます。

古瀬…「みどりのドクターズ」は、活動を通じてどういったことを目指しているのですか？

横田…私たちの役割は「気候危機と命は密接につながっている」という事実を届け、アクションを起こすことです。気候変動に対しては、人によって危機感が異なるように感じています。その大きな理由としては、「環境問題って大事だけど今の自分には関係ない」と大多

古瀬…今時の繋がりで興味深いです！横田先生が「みどりのドクターズ」に参加したきっかけも教えてください。

横田…それでは医師になった経緯から説明します。幼いころ被災した阪神淡路大震災や、偶然ラジオで聞いた国際的な飢餓問題が印象に残っており、将来は人の役に立つ仕事がし

- 注1) プラネターリーヘルス…地球環境と人間の健康とが相互に影響し合うメカニズムを探求する概念。
- 注2) Fridays For Future (FFF)…スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリ氏が、国の気候変動対策が消極的な姿勢であることに抗議したことから始まった運動。多くの若者の共感を呼び、世界的に運動の広がりを見せ、2019年2月日本でも東京から端を発して全国各地に活動が広がった。
- 注3) 中村 哲 医師…パキスタンとアフガニスタンで30年にわたり医療をおこなってきた日本人医師。2019年に武装勢力の銃撃にあい死去したが、生前、井戸堀りによる飲み水の確保、荒れ果てた土地をみどりの大地に変えるための水路事業など多くの功績を残し、「アジアのノーベル賞」といわれるマグサイサイ賞をはじめ多数受賞している。Medi-Wing57に中村医師のインタビュー記事あり。https://aequalis.jp/medical-student/medi-wing/
- 注4) 日本プライマリ・ケア連合学会…プライマリ・ケアは国民のあらゆる健康上の問題、疾病に対し、総合的、継続的、全人的に対応する地域の保健医療福祉機能や、その取り組みを意味する概念。日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療医学会、日本家庭医療学会の3学会が2010年に合併して設立された。
- 注5) 一般社団法人にじいろドクターズ…LGBTQについて適切な知識と態度を学び、共に考える機会を提供することで、全ての人が公平に健康を考え、享受できる社会を目指す医療者のコミュニティ。
- 注6) モデル・コア・カリキュラム…日本の医学部で医師を養成する医学教育に関して、全大学で共通して取り組むべき教育内容の「モデル」として体系的に整理したもの。文部科学省の委託により一般社団法人日本医学教育学会により策定されている。

数の方が感じてしまっていることだと思っています。しかし、2024年度のコアカリキュラムに気候変動が追加されることが決まっており、医療と気候変動が切っても切り離せない関係であることが明記されました。「患者さんの健康は、地球環境が守られて初めて守られる」ということを医学生たちと一緒に考えていきたいです。

古瀬…ありがとうございます。今岡さんは同級生と気候変動について話しますか？

今岡…みんな気候危機や社会問題について考えていることはあると思うのですが、話題に挙げたり、行動している人はあまりいません。私自身は、近い友人や家族には気候変動の話題を話すようにしています。近い人からの発言だと聞いてもらえることが多いからです。中には私の話を聞いてから動物性の食事を控える人もいました。

古瀬…私もあまり話したことがないです。今岡さんが所属しているFFFについても教えてください。

今岡…FFFはグレタさんの学校ストライ



キから始まったアクションで、若い人に限らず幅広い世代が参加しています。2018年にフレタさんがアクションを起こした翌年にFFF JAPANが発足しました。今では全国に拠点が広がっています。支部ごとに活動内容は異なるのですが、清掃活動などの地域に根ざした活動から、デモやマーチなどの政治へアプローチする活動、中高生への出前授業などを行っています。

古瀬.. 幅広く活動を行っていますね。その中で今岡さんが取り組んでみてよかったなと思う活動はありますか？

今岡.. 「選挙マルシェ」という取り組みです。私が思う一番簡単なアクションは投票です。気候変動に取り組んでいる政治家に投票することが、状況を変える上で一番早いと思います。マルシェとはフランス語で「市場」を意味しており、「選挙マルシェ」は、公園などの会場の中に複数の政治家がそれぞれブースを準備し、そこに訪れた市民と気軽に喋りをする催しです。個人で政治家に政策などの話を聞きに行くのはハードルが高いですが、公園にブースを設けることで、気軽に政治家の話を聞くことができるようになりました。市民団

要があると思います。

日本は化石賞という不名誉な賞を4回連続受賞しており、国際的な評価として日本は環境問題に対して後ろ向きであると認識されていますが、日本のメディアはこの事実をあまり扱いません。そのような事実を皆さんとシェアして、国民が政治に届けていくことが大事だと考えています。世界の35%の人が本気で行動をおこすと世界が変わるという研究があります。気候変動はなかなか大変な問題ですが、興味のある人や身近な人に影響を与えることはとても大事です。

今岡.. パワーシフトのまとめサイトは私もよく見ています。私個人として取り組んでいることは、食事の際になるべく動物性のものを避けたり、外食時にカトラリーを持参したりすることです。買い物でプラスチック製品に注意するなど、誰でも取り組めることはたくさんあると思います。

古瀬.. 個人でできることは想像できなかったので、お二人から実践できそうなことを聞いてよかったです。

今岡.. この対談まで医療と気候変動の繋が

りやNGOの方ももちろん、通りすがりの方も参加してくれました。「選挙マルシェ」を通じて、政治家と同じ立場で話し合える場を設けたり、フラットに集まれる場所があることの良さを感じました。FFFでは気候変動のブースを作りましたが、公道でデモを行うのと比べても市民へ与える印象が違うように感じました。

古瀬.. 確かに投票は18歳以上だと誰でもできますね。

横田.. 政治つてものすごく大事だと思えます。現在、化石燃料による大気汚染で1年間に800万人以上の方が亡くなっているといわれています。私たちはコロナによってありとあらゆる社会生活が変わったこともあり、コロナに対する取り組みの注目度と比べると、気候変動の注目度はとても低いなと思っています。今の日本で化石資源を一切使わない生活が今すぐできるかというと、残念ながらできません。しかし、今日からできるアクションとしては、自宅で利用する電力会社を再生可能エネルギー100%の会社に切り替えることがお勧めです。このような考え方は「パワーシフト」と呼ばれています。表面上100%と表

りをあまり考えていませんでした。医療業界が気候変動に及ぼす影響と、医療現場で対策ができることについて教えてほしいです。

横田.. 実は医療業界も温室効果ガスを多く排出していて、全体の5%は医療業界だと言われています。日本が2030年までにCO₂排出46%減を公約にしているので他業界では少しずつ削減していますが、医療業界は年々増

記している電力会社もあるので注意が必要ですが、地域ごとに信頼できる電力会社リストが掲載されているホームページ左記があるのをご確認ください。変更した場合の金額が気になると思いますが、消費電力を入力すると比較できるシミュレーションがあります。すぐに行けるアクションなのでお勧めです。

日本では第7次エネルギー基本計画を今年見直すと言われており、日本がいかに再生可能エネルギーを増やし、石炭火力をなくせるか注目しています。世間でも石炭はなくなっていくという認識になっていますが、最近の日本はアンモニア混焼を利用した火力発電に注力しています。アンモニアを石炭に混ぜて燃やすと、少しだけCO₂を減らせるからです。しかし、人の健康を守るという視点に立つならば、石炭火力そのものをなくすよう考えていく必



▲パワーシフト・ホームページ

注7) エネルギー基本計画…エネルギー需給に関する政策について中長期的な基本方針を示した日本のエネルギーに関する政策の土台となるもの。

注8) 化石賞…環境NGO「Climate Action Network(CAN)」が、気候変動対策を交代させている国に与える賞のこと。CANは130か国の1800以上の団体からなるNGOネットワークで、世界各地のNGOが受賞者を決定する。



えているというデータがあります。医療業界として気候変動に対してできることは、「適応」と「緩和」です。「適応」とは、すでに生じている気候変動による災害を軽減したり、回避する取り組みです。近年、気候変動の影響で、豪雨や猛暑の被害が増加していますが、そのような災害から医療者の立場として「適応」対策を講じることが出来ます。例えば、ハザードマップを作成・案内することで、安全に避難誘導をすることが出来ますし、自宅にエアコンがなくて熱中症にかかり、病院に運ばれて来た人には、エアコンが使える公的スペースを案内することで、熱中症で亡くなることを防ぐことが出来ます。

「緩和」とは、気候変動を食い止めることを意味しています。医療でできる「緩和」アクションとして、「低炭素の代替」、「予防活動」、「チューニングワイズリー」、「セルフケア」の4つが挙げられます。

「低炭素の代替」では、吸入器、麻酔ガスを今使っているものから低炭素のものに切り替えるだけで、かなり温室効果ガスを減らすことができます。「予防活動」では、そもそも医療機関にかかって検査・治療を行うと温室効果ガスの増加に繋がるので、病気になるようにすることが大事です。そのために運動と



食事に注目しており、運動をすることで死亡率を減らすことが分かっている。コミュニティに働きかけています。食事では、野菜と果物中心の食事に替える事で、牛肉の消費が抑制され、メタンガス削減に繋がるといって、健康にも環境にも良い食事の提案をしています。また、不要な検査や治療は省き、患者さんにとって本当に必要な医療を目指す「チューズンゲワイズリー」というキャンペーン活動の推奨も有効です。「セルフケア」とは、病気とうまく付き合って生きていくことです。私は元氣と病氣のバランスが大事だと考えており、元氣を増やすアプローチがすごく重要だと思っています。地域や近所の人と関わりたくない人は病氣になりやすく、病氣の発見も遅れやすいので、重症化し、医療のコストも大きく、温室効果ガスが増える要因になります。人とのつながりを増やして元氣を強める「社会的処方」や、自然と触れ合うことで気持ち元氣になる「緑の処方」に医者としてぜひ関わっていきたいです。

日本はまだヘルスケアの目標を立てていませんが、イギリスのNHS(国民健康保険サービス)では2040年までに医療業界からの温室効果ガス排出を0にするという目標を掲げて、使い捨て器具の代替を推進しています。みどりのドクターズでも、医療保健介護

業界でも温室効果ガス排出ネットゼロを達成するためのオンライン署名を行い、3月に厚生労働省に提出するという、システムを変えるための政治的なアクションに取り組みました。

今岡：具体的に教えて下さりありがとうございます。ところで、横田先生は、仕事に気候変動が健康に及ぼす影響を感じたことがありますか？

横田：気候変動による影響を感じる場面は多くあります。山口で働いていたころ、明け方に30代の方が重症の意識障害で運ばれてきました。勤務先の工場で熱中症を発症していた、若い方が屋内でも命に関わる熱中症になったことが印象に残りました。豪雨や熱中症以外にも気候変動が健康に及ぼす影響は多く、心臓病や呼吸器の病氣が気候変動で増えることも分かっており、花粉も飛散期間が長くなり、蚊が媒介となるデング熱などの感染症も増えていくことが考えられます。躁鬱などメンタルヘルスの問題も気温が上がると増えると言われています。

古瀬：今まで気候変動と医療に相互の繋がりがあつたことを知らなかったのですが、同じよ

ませんが、医学生のみならず今からでもホームページを作っていけるチャンスでもあると思うので、そういう意味では良い時代と捉えることもできると思います。やりがいのある仕事が一緒にできればいいと感じています。今岡さんの活動もとても刺激になり、色々と一緒に活動していきたいと思いました。

今岡：今日の対談で、今まで繋がらなかった医療と気候問題が繋がつたので、繋がっていないように実は繋がっている分野との関係性をしっかり知ろうと思えました。自分の生活に欠かせないものが地球の環境にも関わっていることを考えたなら、全て包括して学びたいと思いました。

対談の感想

横田：チェックができていないところは、大学側に改善を求めるようアクションを起こす材料にもできます。皆さんも自分の大学をチェックしてみてください。

古瀬：初めて聞くことが盛りだくさんでした。環境対策に取り組んでいる企業がここ数年増えている印象ですが、医療業界は人の健康を守る役割がありながら、温室効果ガスの排出が増加傾向にあることを初めて知りました。人の命がかかっているということを建前目を背けていたのかなと思いました。

医療と関連している分野では遅れていると感じました。実践しやすい例だとパワーシフトなど、医療分野全体が変わっていかねばいけないことがあると学生のうちに知れてよかったです。気候変動という分野に積極的に取り組んでいる学生が多くいることを知り、医療分野全体が同じように具体的な気候変動の対策に取り組めたら、世界の人々の健康に対して良い影響を与えていけると感じました。

横田：日本の取り組みは遅れているかもしれ

うな医学生に伝えたいことはありますか？

横田：医学生にできるアクションとしてプラネタリーヘルスレポートカードという取り組みがあります。自分の大学がプラネタリーヘルスの考え方をどの程度講義に組み込んでいるかを、チェックリスト形式で調査・評価するものです。欧米諸国の医学部が中心となって取り組んでおり、日本では長崎大学や滋賀医科大学の学生団体が取り組んでいます。

今岡：長崎大学では「ししのこプロジェクト」という学生団体が取り組んでいます。環境科学部での調査・評価活動の際に、私もボランティアとして参加しました。

注9) NHS(国民健康保険サービス)…イギリスの国営医療サービス事業をさし、患者の医療ニーズに対して公平なサービスを提供することを目的に1948年に設立された。

注10) プラネタリーヘルスレポートカード(PHRC)…医療系の大学・学部におけるプラネタリーヘルスに対する取り組みを学生が評価し、その改善を図るためのツール。2019年よりイギリスやアメリカを中心にこの活動が始まり、2024年現在は12か国、96の大学が活動に参加している。

概要

全体評価	C+
Curriculum	C
<ul style="list-style-type: none"> 長崎大学医学部は、プラネタリーヘルスをここ数年にわたって推進し続けており、カリキュラムにもそれが反映されつつある。一方、気候変動と健康を主題とした講座(講義)はまだほとんどない。 提案: 教員にアンケートを実施し、プラネタリーヘルスについてどの程度認識や理解があるか調べることで、関連するカリキュラムの医学部内の一層の推進につながると思われる。 	
Interdisciplinary Research	A
<ul style="list-style-type: none"> 長崎大学は過去2年間、プラネタリーヘルスに関する研究に関して非常に高い評価を受けてきたが、今年度も同様の結果が見られた。大学のウェブサイトをわかりやすく改善したこと、COP27に合わせたシンポジウムを開催したことは評価に値する。 提案: プラネタリーヘルスに関する研究成果や知識を学内だけでなく一般に広める活動を同時並行で行った方がよい。 	
Community Outreach and Advocacy	C-
<ul style="list-style-type: none"> 3年間の調査から、長崎大学医学部が長年にわたり、地域との交流、普及、教育活動に取り組んできたことが明らかになった。一方で、学長によるリレー講義や定期的な発信の終了はプラネタリーヘルス推進において懸念される点である。 提案: プラネタリーヘルスを一つのキーワードとし、一般市民を対象とした講演活動を開催するべきである。 	
Support for Student-Led Initiatives	C
<ul style="list-style-type: none"> プラネタリーヘルスに関心を持つ学生や組織に対する支援は整っているが、そうした活動自体の情報を容易に得られるツールはほとんどない。プラネタリーヘルスに関するウェブページは開設されているが、学生がそれを利用して研究活動に参加したり、自分の興味を探索する場を見つけたりするまでには至っていない。 提案: 学生用のページをプラネタリーヘルスに関するウェブページに組み込むべきであり、専門家だけでなく学生にも役立つものにすべきである。 	
Campus Sustainability	C+
<ul style="list-style-type: none"> キャンパスにおけるサステナビリティの取り組みの多くは、国の法律に基づいており、長崎大学が独自に取り組むものはほとんどない。これはそういった取り組みが学生や学生団体、それらをサポートする教職員主体のものではないことが原因と考えられる。 提案: 今回のPHRC作成活動のような学生主導の活動をさらに支援し、全学的な取り組みとしてキャンパスサステナビリティを推進すべきである。 	

▲長崎大学医学部のプラネタリーヘルスレポートカード